令和８年　３月　２６日

令和７年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和７年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

令和7年4月17日(木)

3　調査対象

小学校　第６学年（国語，算数，理科，児童質問調査）

中学校　第３学年（国語，数学，理科，生徒質問調査）

4　本校の参加状況

① 国語　　８２人

② 数学　　８２人

③ 理科　　８０人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており,実施教科が国語，数学，理科の３教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

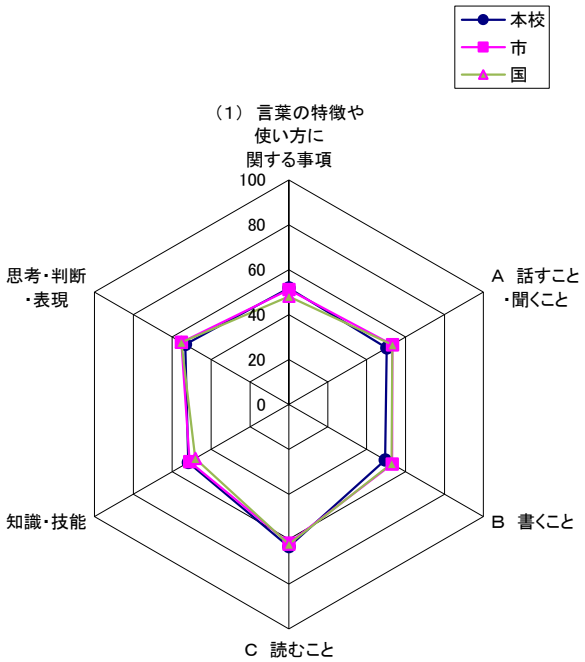
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内中学校第３学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	（1） 言葉の特徴や使い方に関する事項	51.8	51.1	48.1
	（2） 情報の扱い方に関する事項			
	（3） 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと･聞くこと	50.3	53.2	53.2
	B 書くこと	49.5	53.1	52.8
	C 読むこと	63.4	61.8	62.3
観点	知識･技能	51.8	51.1	48.1
	思考･判断･表現	53.3	55.3	55.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

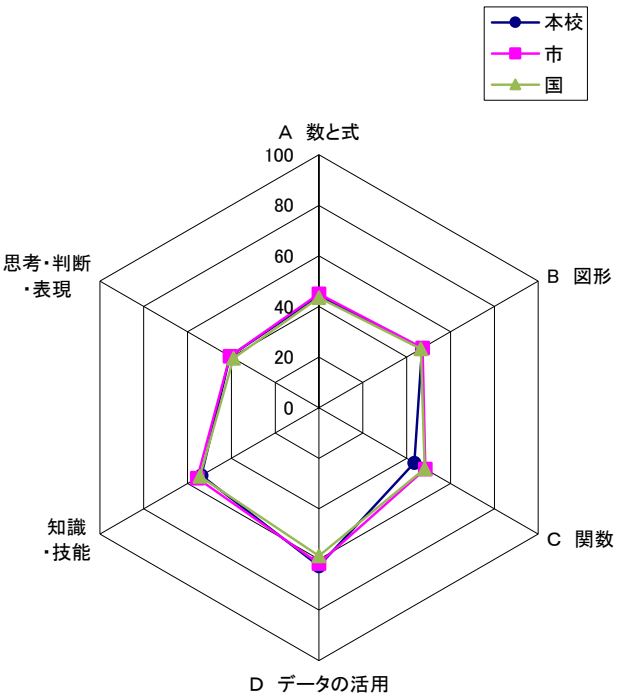
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
（1）言語の特徴や使い方に関する事項	○「文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる」問題では正答率が40.2%で，，県の平均を5.5ポイント上回っている。 ○「事象や行為を表す語彙について理解しているかどうかをみる」問題では正答率が63.4%で，県の平均を0.4ポイント上回っている。 ●漢字を正しく使う問題において半数以上が正答できなかった。	・文脈や言葉の意味を関連付けて指導し，漢字の読み書きを行う活動を多く取り入れる。
（2）情報の扱い方に関する事項		
（3）我が国の言語文化に関する事項		
A 話すこと・聞くこと	○「自分の考えが明確になるように，論理の展開に注意して，話の構成を工夫することができるかどうかをみる」問題では，正答率が76.8%で．県の平均より3.8ポイント上回っている。 ●「資料や機器を用いて自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる」問題は正答率が15･9%で，県の平均よを8.2ポイント下回っており，資料の有効活用に課題が見られる。	・資料はあくまで発表の補助であり，原稿でないことを確認し，プレゼンテーションを行うなど，実践的な活動を取り入れる。 ・総合的な学習の時間なども活用し，自分の活動のまとめ作業でも，資料を用意し発表する場を設ける。
B 書くこと	○すべての問題において無回答率が県，国の平均より低く，粘り強く問題に取り組む姿勢が見られる。 ●「読み手の立場に立って，表記を確かめて，文章を整えることができるかどうかをみる」問題は，正答率が50.0%で，県の平均を6.6ポイント下回っていることから，正しい文章の構成や表現に課題が	・作文指導の時間などで，原稿用紙の使い方や，誤字脱字に注意しながら書くことを意識づける。
C 読むこと	○「文章全体と部分との関係に注意しながら，登場人物の設定の仕方をとらえることができるかどうかをみる」問題は，正答率が93.9%で，県の平均を4.3ポイント上回っている。 ●「文章の構成や展開について根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる」問題において本校正答率が県の平均を2.4ポイント上回っているが，正答率自体は19.5%と低い数値である。	・物語の行間に隠された意図を読み取るなど，文章一つ一つに対して深読みや考察を行うなど，内容を吟味する。

宇都宮市立上河内中学校第３学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	44.1	45.0	43.5
	B 図形	47.0	47.2	46.5
	C 関数	43.5	48.5	48.2
	D データの活用	62.6	61.6	58.6
観点	知識・技能	53.7	55.6	54.4
	思考・判断・表現	40.7	40.7	39.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	○「数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる」問題では，正答率が64.6%で，県平均を14.7ポイント上回っている。 ●「素数の意味を理解しているかどうかをみる」問題では，正答率は22.0%で，県平均を10.5ポイント下回った。	・知識・技能に関する小テストを，今後も継続して繰り返し取り組ませることで，基礎的基本的な計算を正確に解けるようにする。 ・数学的用語などの意味を定期的に確認する。 ・数の性質についての説明力を高めるために，習熟度学習を取り入れる。
B 図形	○「証明を振り返り，証明された事柄を基にして，新たに分かる辺や角についての関係を見いだすことができるかどうかをみる」問題では，正答率が63.4%で，県平均を6.5ポイント上回っている。 ●「多角形の外角の意味を理解しているかどうかをみる」問題では，正答率は50.0%で，県平均を4.6ポイント下回った。図形の性質を理解することに課題が見られる。	・「相似な図形」「円」の単元において，図形の用語，定義や定理，証明の書き方など，１，２年生の内容も踏まえて指導する。 ・１年生の平面図形や空間図形の単元の復習を，継続して繰り返し取り組ませる。 ・証明問題や図形と関数が関わる発展問題に取り組む機会を増やし,活用する力を身に付けさせる。
C 関数	○「事象に即して，グラフから必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる」問題では，正答率が73.2%で，県平均を0.9ポイント上回っている。 ●「一次関数y=ax+bについて，変化の割合を基に，xの増加量に対するyの増加量を求めることができるかどうかをみる」問題では，正答率が22.0%で，県平均を11.1ポイント下回った。変化の割合から増加量を求めることに課題が見られる。	・既習事項を復習する時間を設け，それぞれの関数の特徴を理解したうえで，問題に取り組ませる。 ・「２乗に比例する関数」の学習の際に，比例・反比例，１次関数の既習事項の復習を繰り返し指導する。また，表・式・グラフを関連させながら，それぞれのよさを生徒に気付かせ，適切な表し方を判断して，表現する機会を増やし，定着を図る。 ・関数の定義について復習を行い，内容の定着を図る。
D データの活用	○「相対度数の意味を理解しているかどうかをみる」問題では，正答率が62.2%で，県平均を11.4ポイント上回っている。 ●「必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうかをみる」問題では，正答率が72.0%で，県平均を3.5ポイント下回った。確率を求めることに課題が見られる。	・標本調査の単元において，資料の整理と活用，確率など1，２年生の復習に取り組ませる指導を行う。 ・データの特徴を知るために，累積度数や相対度数，最頻値，平均値，箱ひげ図などを活用することの意味を感じられるようにするため，日常生活の場面を多く取り入れるようにする。 ・資料を活用して問題解決していくような課題学習に取り組ませることで，正しい知識を用いて正しい判断ができるよう指導していく。

宇都宮市立上河内中学校 第３学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「人が困っているときは，進んで助けていますか」という質問に関しては，「当てはまる」と回答した割合は53.2%で，県の割合を8.9ポイント上回っている。また，「いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問でも，「当てはまる」と回答した割合は87.3%で，県の平均を5.5ポイント上回っている。このことから，日常的に，困っている人を見かけたときに声をかけたり，手を差し伸べたりする行動が習慣づいていると考えられる。今後も，具体的な場面での行動を促す指導や，思いやりの心を育む活動を継続していきたい。

○「１，２年生のときに受けた授業で，PC・タブレットなどのICT機器を，どの程度使用しましたか」という質問に関して，肯定的回答が69.6%であり，県の平均を24.6ポイント上回っている。また，「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字，コメントを書くなど）ことができると思いました」という質問でも，肯定的回答が94.9%で，県の平均を10.1ポイント上回っている。英語や理科の授業において，振り返りやまとめなどの活動で継続的に使用したり，その他の授業でも，教科書等にある動画コンテンツを視聴したりしていたことが，肯定的回答につながったと考えられる。

○「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか」という質問に関して，肯定的回答が94.9%であり，県の平均を14.5ポイント上回っている。また，「１，２年生のときに受けた授業で，自分の考えを発表する機会では，自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組立てなどを工夫して発表していましたか」という質問でも，肯定的回答が81.0%で，県の平均を12.6ポイント上回っている。このことから，タブレット等のICT機器を活用して情報を整理・構成し，自分の考えを視覚的に伝える力が身に付いていると考えられる。今後は，互いの発表を評価し合う機会を取り入れるなどして，表現力やコミュニケーション力の更なる向上を図りたい。

●「学校の授業時間以外に，普段（月曜日から金曜日），１日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間，インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」という質問に関して，「３時間以上」「２時間以上，３時間より少ない」「１時間以上，２時間より少ない」の回答割合の合計が56.9%であり，県の平均を9.1ポイント下回っている。今後は，家庭と連携を図りながら，家庭学習の必要性や効果について生徒に意識づけを行ったり，より具体的な学習計画を立てさせたりしていきたい。

宇都宮市立上河内中学校（第３学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
表現力を高め，自分の考えを深め合う授業	主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）の実施に向け，思考力を深めるために，各教科で共通して「書く時間」を重視した授業を展開する。	「１、２年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の質問に肯定的に回答した生徒の割合は81.0%で，県の割合と比べて12.6ポイント高い。 「１、２年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の質問に肯定的に回答した生徒の割合は75.9%と県の割合と同程度である。国語の「書くこと」は県の平均を3.6ポイント下回った。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
基礎的・基本的内容の定着がされていない。	基礎的・基本的内容の定着を図る。AIドリルや振り返り活動の充実を図る。	・各教科で確実に定着させたい内容ではドリル学習（AIドリル等）を根気強く行う。 ・達成目標を小さく設定し，確実に達成できるようにする。 ・家庭学習の習慣化及び質の向上を図らせる。